

演題

当院での目視駆出率 Visual EF の信頼性と有用性 Modified Simpson 法との比較

宮崎市郡医師会病院 生理検査室

高原 智幸、日高 忠良、福田 智之、田永 哲士、
河合 一史、江籠 智和、中村 裕一、稲田 美代

(目的)

心機能評価法である目視駆出率 VisualEF に着目し信頼性と有用性について、Modified Simps 法(biplane)を使用し比較、検討を行った。

(対象および方法)

対象は当院で心エコーを行い、Modified Simpson 法(以下 Simpson 法)を施行し得た症例 91 名 (男性 69 名 女性 22 名 平均年齢 63.2 歳)を断層法より抽出された基本 7 断面から壁運動を肉眼で判定し各検者(11 名)の経験に基づき 5% 間隔で EF を推定した。

(結果、考察)

目視 EF と Simpson 法の比較した結果、検者 11 名中 9 名が $r = 0.801 \sim 0.867$ と良好な結果が得られた。11 名中 10 名が Simpson 法に対して平均 10% 程度低値になる傾向が認められた。asynergy(-)、asynergy(+)、全周性低下、と 3 カテゴリーすると $asy(-) > asy(+)$ > 全周性低下と $asy(-)$ がより低値に推定する傾向が認められた。平均誤差が 10% 以上の症例 15 例中 12 例が $asy(-)$ 、統計上の有意差は、認められなかったものの 12 例中 7 例が徐脈であり一つの低値傾向の要因ではないかと思われた。

(結語)

目視 EF は Simpson 法と良好な関係が認められ、EF 評価法のひとつとして有用であると思われる。心エコーに精通した検者であれば臨床で使用する際ある範囲(10% 間隔)を持って半定量的に行えば問題ないと思われる。本法は、リアルタイムに EF 推定が出来る点や緊急心エコー時などの急を要する場合などに有用である。